

新しいページを開きにやってきたみなさんへ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学 公開日: 2013-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 細野, はるみ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/15823



新入生へ贈る私のメッセージ



新しいページを開きにやってきたみなさんへ

細野 はるみ

(ほその・はるみ) 情報コミュニケーション学部教授(日本語表現・文学)。

一九四九年東京都生まれ。東京学芸大学教育学部卒。東京大学大学院人文科学研究所博士課程退学。主な論文「若菜への出発―源氏物語の転換点―」ほか



毎年、四月に新人を迎え入れることも私にとって恒例になっていましたが、昨年発足したばかりの情報コミュニケーション学部の教員としては、新学部の一年生を迎えたこの一

年は、例年とは少し違つて目新しく新鮮な気持ちで過ごしました。

とはいえ、改めて新入生のみなさんに新しい大学生活のページへのはなむけを、と言われてもとつきにふさわしい言葉が思い浮かびません。教訓めいた御大層なことは口幅つたいたので、既に四半世紀あまり、明治大学の校門をくぐる新人を見てきた者としての雜感を述べることをお許し下さい。

何の小説にだったかは忘れてしまいました。大学に入ったばかりの新入生は毎日新鮮な気持ちで通いながら、とりとめのない思いがしているものだ、といったような言葉がありました。ちようど今のみなさんの状態もそういったようなものではないかと想像します。その「とりとめのなさ」の中には、新生活への期待や希望や不安などとともに、こんなはずではなかった、といった失望や悔恨もこめられているかもしれません。でも、そうした思いをかみくだきのみこんで、明治大学の中に確固とした自分の居場所を見つけて行ってほしいと思います。

大学の中での居場所となるのはどういふところでしょうか。高校時代までのように各自のホームルームとなる部屋があるわけではありませんので、はじめのうちはそれこそつか

み所がないかもしれません。でもそのうちに、サークル部室や食堂、近くの喫茶店、少しなじんでくるとゼミの先生の研究室などが、それぞれの居場所になっていくことでしょう。人によってはアルバイト先であったりするかもしれませんが。そうした居場所をつかんでいく日々が明治大学でのみなさんの大学生活を裏付けていくにつれ、あなたの大学入学当初の「とりとめのなさ」も、方向性を持つものへと変化していくのでしょう。

それらの居場所は、場所そのものではなく、どういう人と集うか、つまり人の条件によってあなたにとって居心地のよい場所になっていることが多いでしょう。そして、時には一人になるための隠れ家のような場所も見つけることができたなら、あなたはれっきとした明治大学人としての一ページを獲得したということができるといえるでしょう。

そうした隠れ家のような居場所の一つとして、図書館内の散歩をお勧めします。入学したら、早めに図書館を訪れて探検してみましよう。図書館案内のツアーに参加して図書館の中を専門のスタッフに案内してもらうのもよい方法でしょう。図書館とは、何か必要に迫られて時間を気にしながら資料や文献を探すためのものではありません。さしあたりこれといった目的はないのだけれど、書庫の中を、ちょうど小さいころ動物園に遠足に

行った時のようなわくわくした気持ちで、一つずつ本棚を眺めながら、そして時に手に取って思いもかけないような本とのめぐり合いを楽しみながら歩いていくというのが、図書館を散歩として訪れるときの醍醐味だと思います。明治大学の図書館は規模が大きいので、方向音痴気味の私は興味に任せて歩き回っているうちに迷子になることがしばしばです。もともと、最近はこうしたゆとりのある探索がなかなかできないのでつまりませんが。その理由は、時間のなさや体力のなさです。そう、図書館の探索には、時間と体力が必要で、す。だからこそ、若いみなさんにお勧めするのです。そして、こうした探索の経験を多く持っていた方が、いざ必要な本や資料などを探すときに「鼻が利く」ことは確かです。資料というものはインターネットを通して得るものだ、という声も聞こえてきそうですが、ネット上ではいろいろなホームページを縦横無尽に探索することに慣れているみなさんも、ぜひせっかくの明治大学の図書館に触れる機会を生かして、足を使い、身体を使って、縦横無尽に行き来する楽しさを味わってください。

学生は勉強するもの、とは世の常識ですが、「勉強」は「強いて勉めるもの」でもあり、時に「しなければならぬことにはげむ」という意味にもなります。明治時代の小説に、

兄が針仕事を一生懸命やっている妹に「大変勉強だね」と声をかけるなどという使い方もあり、現代のように学校でやる学問研究に限った言葉ではありません。商人が値引きをする意味での「勉強」も最近はあまり聞かなくなりましたが、これもできない値引きをあえてするといった意味でしょう。「勉強」という言葉にはどうもそうした強制力という匂いがつきまといっているようですが、「教養」はむしろ、強制されてというよりは、楽しんで我が身のものにする、といったものでありたいですね。大学での居場所があなたに遊びとしての一ページも提供しうるものになったら、あなたももう立派な明治人です。